

2017年11月21日
ディサークル株式会社

富山銀行、本店移転に先駆けた働き方改革の一環として ポータル型グループウェア、ワークフローシステム「POWER EGG」を採用

－業務の「スピード化」や「見える化」に期待－

ディサークル株式会社（本社：東京都千代田区／代表取締役社長：西岡 毅、以下 ディサークル）と三谷産業株式会社（本社：石川県金沢市／代表取締役社長：三谷 忠照、以下 三谷産業）は、株式会社富山銀行（本社：富山県高岡市／代表取締役頭取：齊藤 栄吉、以下 富山銀行）へポータル型グループウェア、ワークフローシステム「POWER EGG（パワーエッグ）」を提案し、この度採用決定を受けました。富山銀行では来年1月より利用を開始する予定です。なお、第一地方銀行では15行目の採用となります。

■ 富山銀行での「POWER EGG」採用に至った背景

富山銀行は、地域経済や金融を巡る様々な環境変化に対応した、本部・各営業店の機能・役割、人員配置など業務運営体制の見直しを進め、経営基盤のさらなる強化に努めています。また、2019年夏に本店の竣工・移転を控え、業務改革プロジェクトチームを組成し、ペーパーレス化など先行して働き方改革を進めています。

そのような中で社内情報の共有や決裁のペーパーレス化などを実現する機能を標準機能で備え、業務生産性の向上に貢献する働き方改革の実践的ツールとして、「POWER EGG」にご注目いただき、今回の採用決定に至りました。

■ 「POWER EGG」導入により期待される効果

1. スピード化

稟議や報告書などといった各種決裁のペーパーレス化により、外出先でも決裁可能となり意思決定のスピード化が図れることや、複数のシステムを一元化することによる効率化。

2. 見える化

スケジュール管理、文書管理や電子会議室などの機能を活用したコミュニケーションの活性化や必要な情報のみを伝達するポータルによる行内業務・情報の見える化。



■ 今後の展開について

今後、富山銀行では「POWER EGG」および渉外担当全行員へ配付予定のモバイル端末の活用を通じ、社内情報の共有・利活用を推進し、業務生産性向上のスピードアップを図るとともに、効果的な営業体制を構築し、経営基盤を強化していきます。

(補足情報)

【富山銀行について】

富山銀行は、5年先、10年先を見据えた経営基盤を確立し、来るべき構造変化に対応するため、2014年4月から2019年3月までの5年間を計画期間とする「富山銀行 *i* プロジェクト “The Next” –もっと夢、もっと富山– (第5次中期経営計画) を策定しています。

また、目指す銀行像とミッションに基づく全社戦略として以下を掲げ、「BOT (Bank of Toyama)」ブランドの確立を目指しています。

- ① 顧客戦略 . . . 構造変化に順応した営業力の強化
- ② 店舗戦略 . . . 効果的な営業体制の構築
- ③ 経営基盤戦略 . . . 筋肉質な経営体質の構築

URL : <http://www.toyamabank.co.jp>



新本店イメージ図

【ディサークルについて】

ディサークルは、「気づき」を促すポータル型グループウェア、ワークフローシステム「POWER EGG」を開発・販売することを目的に1999年に設立されました。金融・民間企業を中心に「お客様の業務生産性向上」をメインテーマに、マーケットニーズを的確に掴んだ製品開発を目指し、お客様にとって確実に導入効果が得られる製品「POWER EGG」を2000年より販売しています。

URL : <http://www.d-circle.com>

【POWER EGG について】

POWER EGG は、統制強化と業務生産性の両立を図る上場企業や中堅企業を中心に、「気づき」を促す PUSH 型ポータル機能やワークフロー機能などを提供しています。最近では、地域金融機関における導入実績も堅調に増加し、2017年10月末時点で、1,249社(自治体:78団体 第一地方銀行15行を含む)約374,000ライセンスの販売実績となり、国産ポータル型グループウェア、ワークフローシステムとして高い評価を受けています。

※POWER EGG は、ディサークル株式会社の登録商標です。

※その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。